

## 市長と語る会(令和4年8月5日)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
1	わがまち支え合い協議会の情報が市長に伝わる仕組みを教えてください。	市民協働推進部、福祉保健部などの関係部署から情報が届きますし、社会福祉協議会の方から情報が届くこともあります。
2	地域のつながりが希薄となっている中で、近所の人々が助け合える関係を作ることが大事だと考えている。また、地域包括支援センター、民生委員などと要支援者の情報を共有できるとよい。	地域のつながりの希薄化については課題であると認識しており、その対応としてわがまちささえあい協議会の皆さんなどにご協力いただいております。要支援者の情報については、弾力的な取扱いについてを検討を進めていきます。
3	コロナ禍でイベントが中止となり、障害のある人などがますます社会とのつながりがなくなっている。コロナ禍においていろいろな人と接点を持つ機会を作るとをそろそろ考えるべきだと思う。	これからは人が集まる機会を作っていく必要があると感じています。コロナの対策をしっかりとしながら、一歩外へ出るきっかけを作っていきたいと思います。
4	いろいろな方が見守り活動を行っているが、連携のため、文化センターなど地域の情報を集約する場所が必要だと思う。	情報を集約しないと、よいタイミングで必要なサービスを提供できませんが、子育て支援に関しては、新たに開設した子育て世代包括支援センター「みらい」が重要な役割を果たすと思います。また、市内の11か所にある文化センターも重要な役割を果たしますので、皆さんが横につながり、見守りを担っていただくことを期待します。

No	意見	回答
5	地域包括支援センターにおいて、学校向けの認知症サポーター講座をオンラインで行った。ZOOMなどのデジタルツールを利用するなど、直接会う形以外にも気づきのアンテナを育む方法を模索する必要がある。	高齢者の方はデジタルツールになじみのない方もいますので、どう乗り越えていったらよいかという点も、この会の中でお話しただけるとありがたいです。「気づきのアンテナを育む」という素晴らしい言葉をいただきまして、気づきのアンテナをみんなが持つようになることが第一歩で、いかにそれを皆さんに伝えていくかということが大事なことだと思います。
6	地域包括支援センターとして地域のイベントに参加した際、センターを利用する高齢者の方にボランティアとしてご協力いただいた。まだまだ高齢者の方でもできる力があるので、こういうことをやりたいと言う提案があったら、一緒に協力してやっていきたい。	高齢者の方へお声掛けいただき、活躍していただくことは、介護予防などの観点からも重要なことだと思います。
7	見守り活動の拠点や地域の方の集いの場として、空き家を活用していただければと思います。防災や防犯の観点からも取り組んでほしいです。	空家対策協議会で数年議論をしていますが、空家は本当に難しい問題があります。空き家になった複雑な事情がある中、危険な状況などを改善するために調整をするとともに、使いたい方に使っていただけるようマッチングについても協議をしていますが、非常に難しいものがあるということをご理解いただきたいと思います。
8	子ども食堂を運営しているが、コロナ禍で会食ではなく弁当の持ち帰りに変えたら、参加者が減ってしまった。みんなが集まって食事をする場所を求めていることがわかった。また、自治会で地域の名簿を作成し、熱中症の時期に高齢者に直接お会いすることをやった。名簿を作ることも良いと思う。	やはりみんなと一緒に場所に行きたいという気持ちは、どの年代だからということではなくて、そういうことを求めていらっしゃる方が多数いらっしゃるということは、よく心に留めておかなければいけないと思います。また、名簿は素晴らしい取り組みだと思います。市でも災害時に、スムーズに支援するために、名簿を今まで以上に使ったり、提供したりしたいと思っています。

No	意見	回答
9	<p>二極化という話もあるが、なかなか出てこない方も、つながりを求めているのではないかと感じている。地域包括支援センターでも皆さんとつながりながら、見守りの種まきをを少しでも根が張るように協力して進めて行きたい。</p>	<p>相手が高齢者でも、あるいは子どもたちでも、見守りの種まきが重要だと思います。根が張るというお言葉も名言だと思います。</p>
10	<p>地域の見守りの拠点として文化センターが想定されるが、身近な場所として気楽な拠点ができるとよいと思う。そのほか、空き家などが活用できればよいと考える。</p>	<p>文化センターには一定のルールがある中で、ささえあいの拠点となるようにいろいろ考えていきます。空き家についても利活用を考えていきます。</p>
11	<p>コロナ禍以降、オンライン化が加速した。市として自治会と連携して高齢者の方にLINEを使うための講座をするなどは、どうか。教える側に10代から40代の方に協力いただくことで、自治会に参加できるきっかけになるのではないか。</p>	<p>市役所でもオンライン化、デジタル化に対応する必要があり、高齢者などに手順を知っていただく必要があると考えてます。また、自治会の勧誘の際、LINEなどでいろいろな情報を自治会で伝えていただくとメリットがあるとおっしゃる方もいらっしゃるようです。フェイス・ツー・フェイスが一番なのでしょうけど、そうでないつながりも作っていくということは、積極的に進めたいと考えています。</p>
12	<p>困った人が一番相談しやすいのが地域福祉コーディネーターだと思うので、文化センターに常駐していただくことで、情報の集約がしやすいと思う。また、フードドライブとフードパントリーのためのワークスペースが文化センター内にあるとよい。</p>	<p>地域福祉コーディネーターが常駐できるような場所があると一番いいと思い、それに向けて取り組んできています。地域福祉コーディネーターを中心に情報の共有や、ある程度の組織だった活動ができるようになることを目指していますが、一足飛びにはいかないので、今はいつこの文化センターにいるかという情報提供をしています。フードドライブ等の場所については、いろいろな制約があるので難しい面もありますが、検討を指示します。 【社会福祉協議会より】 地域福祉コーディネーターが、いつ文化センターに行ってもいる、という日が一日でも早く来るように、進めているところでございますので、今しばらくお待ちいただければ幸いです。</p>

No	意見	回答
13	地域活動を行うには、活動をしたいという人を増やす必要がある。地域参加を促すため、わがまちささえあい協議会が地域にあることを発信してほしい。	広報、ホームページで案内していますが、繰り返し工夫をして広報活動しないといけないと思いました。また、文化センターまつりなどの際、コーナーを設けるなど周知の機会を増やしていきたいと思います。
14	皆さんの話を聞き、地域課題に対応するためには、自分の活動だけでなく、様々な主体が協力し総合的な力にする必要があると感じた。	見守りの輪を広げ、総合的な力が付くよう、市として努めていきます。
15	市や社会福祉協議会から情報提供をいただき、子ども食堂の活動をする中で、利用者から感謝の言葉もいただいている。こういったつながりが重要だと感じている。	そのような利用者の言葉が、皆様の活動が間違っていないのだと励みになると思いますし、私もそのように認識しました。
16	わがまちささえあい協議会や子ども食堂の活動を続ける中で、皆さんが楽しそうに参加したり、困りごとを抱えた方の課題が解決していくことを嬉しく感じている。今はコロナ禍だが、また多くの仲間とともに活動できるようにしたいと考えている。	活動を熱心にやっただいてくださる皆さんには心から感謝しています。皆さんが求めているのは、楽しくみんなと新しいつながりを作ることなのだろうと思います。